



学校通信

令和8年 6月30日
東京都立葛飾盲学校長
竹内 大吾
(第4号)

「学校名刺がつなげる地域との輪」

校長 竹内 大吾

梅雨空の合間に、夏の日差しが顔をのぞかせる季節となりました。校舎敷地内の樹々も青々と葉を茂らせ、本格的な夏の訪れを感じる頃となっています。子供たちは、暑さに負けることなく、日々元気に学習や活動に取り組んでおります。

世の中では、昨年頃から、ボンボンドロップシールなどの平成時代に流行ったシール集めのブームが、子供だけでなく大人にも再燃し始めて、「シル活（シール活動）」などとも呼ばれております。シル活では、シールをシール帳に貼って集める楽しみ方だけでなく、お気に入りのシールを見せ合ったり、珍しいシールを交換したりと、シールそのもの以上に、そこから生まれる会話や人とのつながりにも価値があるように思えます。

さて、今年度の学校経営計画では、キャリア教育に関する項目として、「地域社会とつながる活動の設定」を掲げております。その第一歩として、中学部の生徒が、校内就業体験や職業・家庭の時間で「葛飾盲学校」の名刺を作成して、地域などに配布していく取組を進めております。この名刺は、生徒たちが、絵柄や色のデザイン、用紙の裁断、点字シールの校正などに取り組んで作成し、裏面に本校のホームページの2次元コード（QRコード）を付けておりますので、配布した地域の方々や関係機関の皆様は本校のことをよく知ってもらうきっかけになります。

一枚の名刺は、紙としてみれば小さなものです。しかし、その一枚が学校と地域を結び、新しい理解や協力につながることもあります。シール交換が、人とのつながりを広げるように、この名刺もまた学校と地域をつなぐ大切な役割を果たしてくれるのではないかと期待しております。

また、名刺を作成した生徒たちが、名刺を渡すという行為をとおして、校内だけでなく、校外の大人とかかわる機会をもつことは、生徒たちにとって、将来、社会で生活していく上でのコミュニケーションの力を育むことにもなるかと思えます。

さらに、この取組を、幼稚部や小学部の幼児・児童たちにも伝えていき、ちょっと先の少し大人になったモデルとしての中学部生徒のイメージを形成してくれればと思います。

これからも、葛飾盲学校は、地域の人々とのつながりを一枚一枚増やしていき、まるで、「シル活」のシール帳がお気に入りのシールでいっぱいになるように、学校の周りがたくさんの方の応援や協力、理解の輪で埋め尽くされていく、そんな学校でありたいと思っております。

「小学部移動教室」

5月19、20日に「千葉県立手賀の丘青少年自然の家」へ行ってきました。天候に恵まれ、自然あふれる環境の中で、アスレチックや、薪割り体験をし、野外炊飯では班別活動でカレーを作って食べました。

夜のレクリエーションは児童考案の「トーマス鬼ごっこ」で盛り上がりしました。

2日目は勾玉作りをし、集中して石をやすりで削り、思い思いの形を作りました。

保護者の皆様には準備などの御協力ありがとうございました。

(文責 松井まなみ)